

私の見た三十九年間の

保育界のあれこれ（福島縣）

玉川喜代子



はじめに

福島県保育界のあれこれを語らうとする時、先ず第一に県保育界の恩人、元郡山幼稚園長故松山政治先生の事をお話ししなければならぬ。

松山先生は明治四十一年に子守教育から更に發展して、郡山幼稚園を創立されると、もう三年目の四十三年には福島県保育会を結成された。当時福島、若松、郡山、喜多方の四施設であったと思う。生みの親ばかりでなく更に育ての親として、各地各園輪番に当番される場合、凡てを殆ど先生のお力にまわした。先生は或時機を得て夏休の一ヶ月を、東京鮫ヶ橋の二葉保育園で園児の取扱を實習された。

是は男性としてたった一人であられたそうなる。更に大正四年には五人の子女ある夫人いね子先生を、東京保母伝習所

に送り美事卒業の栄冠を得られた。斯くの如く幼児教育への全き精進は鬼神をして泣かしめるものがあつた。先生が又社会教育の面に於て、全国各地の講師となる事二百数十回、更に朝鮮、満洲からまで招聘された。殆ど寸暇もない多忙の身を、既設の幼稚園のよき指導者として、又新設の幼稚園保育所のためあらゆる協力を惜しまれなかつた。従つて熱心に研究を続ける職員は非常に賞讃された。現白河幼稚園の主任教諭石野キヨ先生、福島幼稚園長の木村先生、原之町の安川とよ先生、小名浜の鈴木いせ子先生などよくほめて居られた。私は上京の往復におよして徹宵お話を伺い、御指導を頂くのが何より嬉しかった。そしてよく泊めて頂いた。

そうした熱の人であられる故に、不完全な設備又は不合理な園児の取扱いなどを御覧になると、もう遠慮なくびし

「当事者に忠告されるので、中にはびく／＼したりする者もあるが、然し何といつても親身になつてなさる事なので叱られ乍ら嬉しかった。

かくて先生の御指導によつて県保育会は日に日に發展して行つた。

「先生の前に先生なく、先生の後に先生なし」

従つて県下の保育者は殆どすべて先生におんぶし、先生にすがつて安心して毎日を過した。所が突如先生が病床の人となられた。一同は皆心より御本復を祈つた。然もこの切なる願ひは報われないで大正十四年五月十八日、大木の倒れる如く、大きな／＼足蹟を止めて幽明境を異にせられた。あゝ巨星おちて暗雲暗く、福島県保育界は茫然自失、なす事を知らなかつた。

夫人いね子先生は雄々しく立ち上つて郡山幼稚園長の重職に就かれた。いね子先生は本当に松山先生のよき半身であられた。幼児教育ばかりでなく、社会事業をして婦人会社会教育、引きもきらぬ来訪者、その凡てを温かく迎へられ夫君のまかれた種子をよく育てられた。この夫人あつて松山先生の一大事業はなされたのである。後年御表彰を受けられる事数しれず、更に高松の宮様に拝謁され、そして立派な記念品を下賜された御榮譽は夫君と共に頂かれたものと思ふ。及川先生が「いつもお子様をつれて夏の講習に

はよくお出でになられて、ねえ」となつかしまれ、静岡の林先生をはじめよく長い御経歴の先生方から、いね子先生の御消息を聞かれる故、唯今の御住所をおしらせする。

「郡山市細沼町七四番地」

今御健在でお子様お孫様に囲まれておいでの事を附記する次第である。

松山政治先生は漸く世の中が幼児教育に目覚めて来た姿を、莞爾として地下で土川先生や杉原治助先生等とお話して居られるだろう。

戦前

福島県保育会 福島県保育会は明治四十三年三月十日前記松山先生の御提唱で結成され、以来唯の一年も休む事なく満三十五年間、戦争たけなわとなるまでずっと続けられた。幼稚園保育所共に伸よく手をたすさえて、全国各地輪番に当番となり実地保育、研究、講習、こんなプランで三日間位、講師は中央部から立派な先生方を招聘した。幼稚園も保育所も丁度七夕様が、一年に一度の逢う瀬を楽しまれるように、一年に一度の逢う日をどんなに楽しんで待ったか、「まあ暫く」「おたっしゃで……」と固く手を握りあつたものだった。そして大正十三年まで会長は松山先生であられたが、御他界後会長として人格者、須賀川幼稚

園長山口金造先生がずっと引続きつとめられた。福島幼稚園の須子とみ子先生は四十年勤続で東都で表彰され、そして退職された。この方も県の立派な指導者だった。

各支部会の中から この外に福島県を大体四支部に分ち、県南、県北、浜通、会津として、この各支部に丁度福島県保育会を小さくしたような研究会が結ばれていた。その中、県南県北を結ぶ中部保育会として、大正八年に発足した会は実に発らつたるものであった。

又我が若松市に於ても大正七年五月から、若松保育研究会を結成し之が実に今日に及び、市内各園は一家族のように、職員の慶弔にまで交情こまやかに隔月に実地保育をして、正会合二百数十回三十六年間、更に私学興隆の使命をもつ本会は眼と眼で話のわかる間柄である。

保育面、それから 大正十年倉橋先生が欧米の視察を終えてお帰りになつてからより以上園児の人格尊重の面が強くと叫ばれ、誘導保育の面に力をそゝいだ。あの人形芝居は特に福島第一幼の木村先生によつて全県下に拡まつた。愈々戦争が始まつて園児の父兄がどん／＼応召されていった。各園はこぞつて慰問袋を送り、又陸病慰問をした。「欲しがりません、勝つまでは」。園児達は出陣ごっこをし、又警戒警報ごっこをし配給ごっこをした。愈々敵襲となつた。真つ先きに相馬の原之町の幼稚園が閉鎖された。

続いて福島郡山等々が或は軍需工場となり、又陸軍病院に変つた。相次ぐ悲報に胸を傷めている中に、我が園にも強制疎開の命令が下つた。八月十日から二十人もの人達が泊りこみで園舎をこわし始めた。お庭の渦巻之台に防空頭巾をかぶつてしがみついた園児達が、「これ丈はこわさないで」と云う意味を叫んだあのいじらしい姿が、今もはっきり私の眼底に焼きついている。

県保育大会の一こま

或夜 たしか大正十三年と思う、須賀川で県保育大会の第一日が終り会員一同やれ／＼とばかり「とらや旅館」の寢床におさまつた。所が寝入ばなに異様なざわめきを感じて眼をすますと「火事だッ」と云う声、ひどい風だ。

「ハッ」として思わず戸を明けたのが悪かつた。火の粉が吹きつけて物凄く近火だ。火を見たら俄にガタ／＼と武者ぶるいが始まつた。紐と云うものはなか／＼しまらないものと云う事は此の時皆が深く経験した。誰か梯子段中段のおどり板の上に、バスケットをひっくりかえして白粉やクリムや何か散らしたらしい。お互に叫びかわし乍らどこをどうやら歩いたのか、とまれ一応女の先生方が一つ所に集まつた。行仁幼稚園長の河井臥竜先生が駆けて来られたので、講師の土川五郎先生の安否を伺つた。「あつちです

「どっちだかち」ともわからないが、とにかく男の先生方はとらや旅館の荷物出しを手伝って居られるらしい。その中のお一人が我々女の先生方の休んだ寢室にあつたと「これはどなたのですか」とお盆位丸いもさくしたものを出示された。見るとそれはアンコ（昔ひさし髪を結っていたその心で、すき毛でもちゃく丸くしたものだ）だった。一同思はず吹き出した。「こっちは」と云われて見たとたん、場所柄も身分も忘れた爆笑が起つた。爆笑又爆笑、男の先生はうるくされたお腹をよじつてこらけて笑つた。そのものは？？？

天気もらすべからず。あなかしこ

今、河井臥竜先生も土川五郎先生も松山政治先生、そして須賀川の当番園長の杉原治助先生……一同を女学校作法室に案内し柏餅にして皆一室にまどろんで翌日いねむりしてお別れした方々、みんな故人になつてしまわれた。

あゝ、

戦 後

終戦後ボツく幼稚園が再開された。

遊戯室なく天井なく下駄ばきで傘さした幼稚園、僅かばかり残された惨めな保育室、そこに我が国は立ち上つた。

公立福島幼稚園は市内各校に附設される事になつて、一

つの幼稚園がバット桜の花の開くように五つの公立が出来上つた。松山先生の郡山幼稚園はついに閉鎖のまゝ結局郡山市内の切なる要望に応えて、お寺やお宮や其の他に一度に三つの幼稚園が建つた。

それと共に世の中の要望と厚生省の指導よろしく、どんくくくくくく保育所が出来ていった。之は全国的であつた。そしてその福祉施設のお世話をなされる県庁の事務官永井健次氏によつて、戦後第一回の福島県保育会は二十三年六月飯坂小学校で開催された。当時福島隣保館の中原まさえ先生は正に健在であられた。副島はま先生を講師として、今後の保育の有り方の説明があつた。次で翌年平市で中里たまたま先生の立派な保育、そして附設の福島の各校長先生は園長として出席され、会の運営を指摘された。次で翌年相馬の中村で開催され、更にその翌年は福島で、県の大会、東北大会をかねて行われた。所が何と県庁の指導主事始め指導課の方々六、七人で殆ど主催者の立場で活躍され、県保育会は山口先生を顧問に仰ぎ、第四幼稚園長桑原明先生が果会長並に東北代表に当選された。爾来ずつと桑原会長は目覚しい活躍を続けて居られる。

戦前「県官の御臨席を頂く事」なんて決議した事と思いくらべ、其の日文部省よりも玉越事務官、又講師として及川先生をお迎え出来た事共考えると全く隔世の感がある。

そして保育所側広瀬喜代子先生より提案されて、県大会はこのまゝの形で行きたい。幼稚園保育所共に仲よく行きたいと云われ、会員一同大賛成であったのに、翌年若松で県大会を開こうとすると、同じような印刷の紙で保育所側から続々と退会届が相次ぐ仕末、が然し我が若松は始終一貫して本会無事終了まで保育所側も挺身された。全国的にも六月は松江市で、幼稚園側の全国大会があり、十月は保育所側丈の大会をされた。

それでいて実際の従事者方は、止むを得ぬ命令に抗し得ない、丁度仲の悪い親と親との間の仲のいゝ子と子の間柄みたいで、時あれば手を取り合つて咽んでいるといった具合。とてもおかしなものに思われる。

そして本年第六回の県の大会は十一月二十四日、石城郡湯本町で開会され、文字通り幼稚園丈の会合となつた。

そして其の名も福島県幼稚園協会と改め会長に福島第四幼稚園長桑原明先生、副会長に公立側から福島第一幼稚園長木村ふさ先生、私立側から不肖玉川となつた次第である。

私幼の場合

私幼は戦後一つの大きな問題にぶつかつた。それは保育所の興隆によつて、保育所には措置費があり、又共同募金が出る。経営は楽だと云うので私幼から保育所にきりかえる園が出る、又同じ私幼でも宗教による経営の方々は信者の献金もあり、又外資の導入もある。

県下五六ヶ所、真に保育料丈を以て経営している幼稚園は文字通り手も足も出ない、さればとてくくと天を仰いで嘆いていたら奇蹟に近い事がおこつた。

それは中央の方々のお骨折りでそして全国の切なる要望に応えられて、私学法が制定された事である。救いの手が差しのべられた。第一回私学審議員として山口金造先生と不肖私が任命された。そして私幼として初の学校法人となつた。年額県より五万円也の助成金を頂ける身分になつた。所が他の幼稚園は如何にして学校法人になるか、そこまでも行く条件が沢山ある。その一つくをふみきるものは資金難以外の何物でもない。この事を思ひ時、先ず何といつても団結だ、団結してふみ越えなければならぬ。山口、玉川両人が任期満了の後を受けてお父様の代から白河幼稚園を経営されている寺西宗美先生と、郡山安積幼稚園長宗稔先生が審議員となられ、公立と相ていけいして本年度は認定講習会を開いて下さつた。是は何といつてよいかかわらない程嬉しい話である。

手をつなごう、しっかり手をつなごう、そして幼児教育のために邁進しよう。私は熱涙をふるつてかく呼びかける。尚本会公立幼稚園は十六ヶ所、私立幼稚園は三十六ヶ所ある。三十九年の歴史は中々つきないが、これ位にして御判読を感謝し擲筆する。

(若松幼稚園園長)